

## ユーザニーズに応じてAIシステムのオンプレミス版をエンハンス。 IP3製品を組み込むことで、最新ID管理機能の短期開発に成功

富士通 株式会社 様



### PROFILE

日本を代表する総合ITベンダーのひとつ。ICT分野において各種サービスを提供するとともに、これらを支える最先端、高性能かつ高品質のプロダクトおよび電子デバイスの開発、製造、販売から保守運用までを総合的に提供するトータルソリューションビジネスを行っている。

設立1935年。資本金3,246億円（2018年3月末現在）。

本店：神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号

本社事務所：東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター



ID統合管理システム  
**EntryMaster**

富士通は、AI（人工知能）オンプレミスシステムのエンハンスを急いでいました。アイピーキューブ製品を組み込むことで、マルチユース対応のID管理機能を短期開発。スピード感あるエンハンスに成功しました。



オンプレミスシステムをシングルユースからマルチユース対応へエンハンスし、多様なユーザニーズにきめ細かく応えたい。



アイピーキューブ製品を組み込むことで、信頼性・拡張性の高いID管理機能を、短期かつ低コストでオンプレミスシステムに追加し、マルチユース対応を実現できた。

## クラウドサービス拡販と並行してオンプレミスシステムのエンハンスが急務に

「富士通のAI（人工知能）関連のシステム・サービスの統一ブランドが、『FUJITSU Human Centric AI Zinrai（ジンライ）』です。30年以上にわたって研究を続けてきた富士通AIの知見と技術が、Zinraiに結集しているのです」と、AIサービス事業本部 プラットフォーム事業部 部長の北村嘉朗氏は語ります。AIの要素技術の中でも、いま注目度が高いのが「ディープラーニング」です。人間が解析条件を設定せずに、コンピュータが自分でデータ処理を重ねながら効果的な解析条件を自動抽出するという機械学習の新技術です。定石にこだわらない打ち手で、人間のトップ棋士に勝利する囲碁ソフトも登場しました。ディープラーニングでデータ活用を高度化することで、さらなるビジネス拡大や変革ができるのではないかと、先進的な企業はさまざまなアプローチで導入・活用を模索しています。

ディープラーニングで効果を出すには、これまでは考えられなかったほど膨大なデータを超高速に処理しなければなりません。富士通は、世界最速クラスのディープラーニング基盤を開発し、2017年4月、クラウドサービスとオンプレミスシステムの2形態で発売しました。

クラウドサービス「Zinraiディープラーニング」は、検討段階でも利用しやすく、すでにさまざまな企業がコールセンター支援、金融業の窓口業務支援、プラント

の故障予測などのAI適用検証に取り組んでいます。一方で、ディープラーニングはやりたいが、データを社外にだしたくないというお客様もいらっしゃいます。オンプレミス向けの「FUJITSU AIソリューション Zinraiディープラーニング システム」は従来のCPU（Central Processing Unit）の代わりに、高速GPU（Graphics Processing Unit）を用いることでディープラーニングのデータ処理能力を高めた「GPUサーバ」と、ストレージに、ディープラーニングに必要なソフトウェアを最適統合して提供するハード・ソフトウェア型のソリューションであり、企業はデータの超高速処理を社内で行うことができます。

「富士通はお客様1社1社にしっかり寄り添ってきました。データを外に出せないお客様に対して、オンプレミス環境を速やかに構築して提供するのが富士通の務めです」と、AIサービス事業本部 チーフストラジストの木原茂氏は開発の思いを語ります。

2017年4月、クラウドサービスと同時に発売した「Zinraiディープラーニング システム」は、ID管理の機能が基本的な認証機能だけを備えたシングルユース対応でした。しかし、社外に出したくない貴重なデータを集めて新しい角度から解析する戦略的なシステムにおいて、マルチユースに対応できる高度なID管理はなくてはならない重要な機能です。

「『Zinraiディープラーニング システム』のID管理機能

を短期にエンハンスして、マルチユースに対応したいと考えました。しかし、ゼロから自社開発していると、検証・評価のプロセスに時間がかかりすぎます。エンハンス時期を遅らせてしまうリスクを避けるには、ID管理製品として開発され、製品として検証を重ねてすでに品質が確保されているソフトウェアを買ってきて、組み込むのが得策だと考えました」と北村氏は説明します。

組み込む製品として白羽の矢が立ったのが、アイピーキューブのID統合管理システム「EntryMaster」です。

富士通株式会社  
AIサービス事業本部  
プラットフォーム事業部  
部長  
北村 嘉朗 氏



「アイピーキューブのソリューションを選んだ理由はとにかく『スピード』。入念な検証とスピードとを両立させられるプロ集団として、われわれの短期開発を支援してくれました。」

